

「すこやか子牛」の普及推進に向けた新たな取組み

淡路家畜保健衛生所

○出口佳宏 松本瞳 武田和士
三宅由利子 嶋田雅之

【はじめに】過肥でない健康で発育良好な子牛の出荷と家畜市場の活性化を図るため、「淡路和牛飼養管理マニュアル（平成 18 年度作成）」に基づいて飼養管理されたモデル農家の子牛を「すこやか子牛」と認定し、生産拡大を図ってきた。今回、すこやか子牛正常発育曲線を新たに作成し、それに基づき発育不良子牛の改善指導を行った。また、枝肉成績の追跡調査や PR 強化を積極的に行い、すこやか子牛の更なる普及推進を図った。

【指導の取組】①すこやか子牛正常発育曲線の作成：平成 18～24 年度の巡回時体測値を、1～9 カ月の整数月齢時の発育値に補正し、体高、胸囲、腹囲と胸腹囲差等の形質について、各月齢の平均値から発育曲線を作成した。②発育状況調査：モデル農家 37 戸を平成 22～24 年度の去勢子牛の出荷体重 (BW) と 1 日増体量 (DG) により、3 区分（Ⅰ区〔14 戸〕：BW \geq 260 kg、DG \geq 0.99、Ⅱ区〔12 戸〕：BW \geq 260 kg、DG 0.96～0.98、Ⅲ区〔11 戸〕：BW $<$ 260 kg、DG \leq 0.95）し、子牛の発育状況を比較した。③飼養管理状況調査：各農家に聞き取り調査を行い、区毎に集計、比較し、問題のあるⅢ区農家を中心に重点指導を行った。

【枝肉成績の追跡調査】平成 21～25 年度に神戸、加古川食肉センターへ出荷された、すこやか子牛（去勢 512 頭、雌 73 頭）と淡路市場上場子牛全体（去勢 7,291 頭、雌 1,546 頭）の枝肉成績を比較するとともに、去勢牛の枝肉成績と子牛出荷時の発育成績の各形質間の相関を調査した。

【結果】①9 カ月齢時の体高、胸囲、腹囲と胸腹囲差の平均値は、去勢が 114.4 cm、149 cm、174.5 cm、25.3 cm、雌が 109.1 cm、144.3 cm、170 cm、25.7 cmであった。②Ⅲ区は各形質とも育成前期の伸び率が低く、特に 6 カ月齢以降の胸腹囲差が小さかった。③Ⅲ区は育成前期の飼養管理に課題があることが推察され、追加哺乳や人工乳摂取量の確保対策等を指導した結果、成績が改善した農家がみられた。④すこやか子牛の枝肉重量は、去勢が 415.3 kg、雌が 366.5 kg、BMSNo.は去勢が 6.0、雌が 6.1であった。⑤淡路市場上場子牛全体と比較して、去勢では枝肉重量、バラ厚、販売価格が明らかに良く ($p<0.01$)、BMSNo.、枝肉単価が有意に良かった ($p<0.05$)。⑥去勢では枝肉重量と子牛市場出荷時の BW、胸囲、DG、発育指数との間に正の相関がみられ、発育良好な子牛は枝肉成績も良い傾向にあった。

【普及推進のための PR 強化】せり名簿へのすこやか子牛である「S」マーク表示、市場内にパネルを展示するとともに刷新した家畜市場ホームページに情報を掲載する等による PR 強化、さらにモデル農家との意見交換会や肥育農家へのアンケート調査を実施した。

【まとめ】今後、すこやか子牛の生産指導体制や PR をさらに強化して、家畜市場の活性化を図るとともに、淡路和牛の増頭につながるよう努力していきたい。